

特別展覧会

聖徳大学児童学部・音楽学部開設記念

中世ヨーロッパの彩飾楽譜」展

ごあいさつ

平成20年春、本大学には児童学部・音楽学部を開設します。それを記念して、本学で所蔵しているコレクションの中から、中世ヨーロッパの彩飾楽譜を展示いたします。

もともと音楽は、宗教との密接な関係によって育まれてきたものです。中世のキリスト教社会においては、各地で独自の典礼が行われ、それに伴って典礼音楽が発達しました。なかでも、ローマ・カトリック教会で用いられたグレゴリオ聖歌は、やがてヨーロッパ全域に広まりました。当時の典礼音楽は、詞に「ネウマ」と呼ばれる記号を付し、当初は音程を示す譜線は存在しませんでした。やがて四本の譜線を用いることが一般的となり、現在の楽譜と似た形となります。

現在伝えられている中世の楽譜には、緻密で色鮮やかな装飾の施されたものが多く見られます。当時の社会では、神の教えを記した聖書が人々の拠り所であり、聖書・聖歌を写すことは宗教活動の基盤ともなっていました。教会・修道院や大学では、写字生と呼ばれる書写を専門とする技術者がおかれ、豪華な写本を生み出すに至りました。

時代が下り、15世紀に活字の発明で知られるグーテンベルグの活版印刷が普及すると、こうした豪華な写本は姿を消しました。今に残るヨーロッパ中世の美の一端を、ご理解いただければと思います。

平成19年12月5日

学校法人東京聖徳学園理事長
聖徳大学学長
聖徳大学短期大学部学長
学園長 川 並 弘昭



中世ヨーロッパの楽譜

中世ヨーロッパの楽譜について

古代ギリシャ時代に登場した楽譜は、ギリシャ語の歌詞の上に音の高低を示す文字や記号を添えるという形式であった。

9世紀になると、グレゴリオ聖歌が広まり、音を正確に伝える手段としてネウマと呼ばれる線状の符号が創出された。10～11世紀にはネウマに横線（譜線）を添えて音程を明確にする試みがなされ、更に13世紀に入ると四角の音符ネウマと四線譜が付されて一般化した。それらは、鉤釘型ネウマを使い続けるドイツを除いて、全ヨーロッパ、即ちキリスト教社会の全地域で使用されるようになった。

しかし、リズムを表さないネウマ譜は不便となり、13世紀後半になると音の長短を音符の形状で表す定量記譜法と呼ばれる形式が始まった。これは声楽で使われていたものであった。そして、15世紀頃から用いられたピアノなどの鍵盤楽器用の楽譜が、今日の最も国際的かつ普遍的なものに発展していった。



昇階誦
13世紀 イタリア



昇階誦
13～14世紀 イタリア



昇階誦
15～16世紀 スペイン



交唱歌
16世紀 スペイン



昇階誦
13～14 世紀 イタリア



昇階誦
15 世紀 イタリア



交唱歌
15 世紀 フランス



昇階誦
18 世紀 イタリア

用語解説

グレゴリア聖歌

：中世以降、ローマ・カトリック教会で歌いつがれてきた単旋律聖歌の一般的な総称で現在千数百曲確認されている。教皇グレゴリウス一世（在位 540 年頃～604 年）が各地域ごとに歌われていた聖歌を集成したことに因み、この名前がついた。

交唱歌（Antiphon）

：ローマ・カトリックの教会暦（教会特有の暦で、キリストの主要な事跡を中心にしている）を通して毎日の聖務日課（毎日一定の時刻に一定の形式で捧げられる祈祷）の中で歌われる歌で、礼拝式の際に、詩篇の（前）後に左右の聖歌隊が交互に歌う。

入祭文（入祭文の項参照）を構成する三部のうちの一つ。

昇階桶（Gradual：1962 年の第二ヴァチカン公会議以降は、「答唱詩篇」と呼ばれる。）

：ローマ・カトリックの教会暦を通してミサ（キリストの死と復活を記念する、ローマ・カトリック教会で最も大事な典礼儀式）中で歌われる歌。聖歌集に収められている。

使徒書簡と福音書の朗読の間に司祭と聖歌隊が歌う。福音書読台に昇る時に歌われたのでこの名前がある。

トレーサリー

：ゴシック式建築の窓・衝立・羽目仕切り等に施す装飾的はざまを意味するが、ここではそれに類する模様を指す。

入祭文（Introitus）

：ローマ・カトリックのミサ用語。主にその日のミサの趣旨を示す。交唱、詩篇唱（歌にした聖書の詩篇）、栄唱（神を賛美する歌）の三部から成り立っている。

ネウマ

：グレゴリオ聖歌等の記譜に用いられた修正の音符。旋律の動きや奏法等を図式的に記号化したもので、時代や地域により各種あり、現在の音符の原型。

フォリオ

：写本（もしくは初期印刷本）に用いられた羊皮紙もしくは紙一葉を指す。伝統的に表面にのみ番号をつけてあり、従ってフォリオ 10（表）、フォリオ 10（裏）という表現をする。



会 期：平成 19 年 12 月 5 日（水）～平成 20 年 5 月 31 日（土）
午前 9 時～午後 5 時（休館 毎日曜・祝日と学事日程による休業日）
会 場 聖徳大学 8号館 利根山光人ギャラリー
会場への案内：JR 新京成線とモ松戸駅下車、東口より徒歩 5分



発行 お問い合わせ 聖徳大学川並記念図書館

Tel 047 - 365 - 1111（大代）

<http://www.seitoku.jp/lib/>

